

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
教育に資する取組	1	殺処分削減のために知識と愛護精神で活動する組織(ORCK)	殺処分ゼロに向けての茨城モデル構築事業 動物愛護の関係機関、関係者の連携でゼロ事業の効果を体感できるツールの開発	動物保護への理解促進策として、事業主体のORCKが開発制作したアニマルレスキューゲーム(ARG)を使ったワークショップを実施する。ワークショップの実施が難しい一定年代以下にはお話し会、講演会等を開催する。 これらの取り組みを通じて、次世代を担う若者に動物愛護に係る啓発活動を行うとともに中長期的に広く活用可能な動物保護への理解促進のための教育コンテンツを制作する。	事業目的の達成のために、以下の各項目を実施する。 1. ARGの改良 制作・開発したARGを用いて動物保護経験者を対象としたワークショップを実施し、様々な意見を抽出し、より実情に合うように改良する。 2. ARGを用いたワークショップの実施 県内の各教育機関や、教育プログラムにおいて、希望に応じてワークショップを開催し、自立的に動物保護活動に関する知識を得るための補助を行う。 3. 様々な年代の子供たちへの講演活動 (ア)小学生年次に対しては保護活動への理解を深めるための”動物クイズ”を含む講演会(お話し会)を実施する。 (イ)中学校以上の年代に対しては、動物保護活動の現状と将来、ペットの飼養方法、野生動物とペットの本質的な違いなどを含む講演活動を実施する。 4. 年代別動物保護教育コンテンツの作成 各年代で中長期的に使用可能な、年代別の教育コンテンツを作成する。各年代別の内容については概ね以下の方針で作成する。 (ア)小学年代向け:動物クイズ等の要素を取り入れて、動物についての理解や親しみやすい内容とする。 (イ)中学校年代向け:動物愛護に関して、自らで問題を抽出し、解決策を検討するために、アクティブラーニングの要素を取り入れて、問題解決を体感させる内容とする。 (ウ)高校生年代向け:殺処分が起きている実際の現実を認識し、その問題解決策を考えてみる内容とする。	今年度は、対面でのワークショップも実施可能になり、積極的に公立学校での活動を提案し、広報活動も活発化させた。その中で、インターナショナルスクールでワークショップ及びその関連事業の開催が可能になった。 今年度は学校の提案で、数学年を同時に対象にしたことで、個別に細かな対応が必要とはなったが、学校からの多大な協力を得て、ほぼ目的どおりのワークショップ開催をすることができた。開催後には、子供たちの理解度や満足度を図る目的で、インターネットによるアンケート調査を行った。 今後、開催方法を更に工夫していくことは必要不可欠だが、年齢による制限は設けずその都度綿密な打ち合わせを行っていくことで対応していく。 また、同時に殺処分ゼロ事業だけでなく、動物と共生することや飼い主のいない動物の状況と保護に関する知識全般について、その情報の提供方法や、伝達方法が不足している点もアンケート結果から確認できた為、今後の取り組みの手法やARGをどう更新するかを熟考する。 ORCKが教育ツールの開発に取り組んだARG開発事業は、教育に資する取り組みであり、犬や猫の命の尊さを学ぶ場や機会を提供する為に行っている。基本的なワークショップの実施が難しい小学3年生以下の生徒には、人間が犬猫を含めて動物と関わった歴史や、動物の行動や動物福祉について、クイズ形式で講義を行う取り組みも、併せて継続する。
	2	かずみがうらママ猫の会	地域猫のT.N.R	かずみがうら市内及び近隣の市町村の地域猫のT.N.Rを目的とする。	地域猫のT.N.Rの実施のため捕獲器が多数必要。 (現在、会の所有数7台) 捕獲が10頭を超える場合、他の団体から借りているため、所有台数20台を目指す。	捕獲機を3台購入し、かずみがうら市及び石岡市周辺の地域猫、飼育崩壊猫のT.N.Rを実施し、かつ、現場で保護した子猫の飼育をし、里親に譲渡を行った。 (2023年度のT.N.R実施頭数:20頭)
その他の取組	3	一般社団法人 koko wanko	迷子のわんこさがしサイト「koko wanko」	県内でも犬猫の迷子が絶えません。飼い主から離れた犬猫は怪我や事故を起こす場合が多く、地域や人にとっても「迷惑」とされる場合もあり、首輪がないと「野良犬」とされます。 警察や行政に保護、収容された時点で怪我をしている場合もありますし、まずは飼い主の手を離れてから早期にみつけてあげることが、犬猫・飼い主・地域にとって大切かと考えて活動します。 その第一歩として、twitterなどのSNSと連動させ多くの方に利用していただける迷子犬をさがすサイトを運営し、1頭でも多くの迷子犬の問題を解決したいと考えています。	迷子犬のさがしサイトの制作支援依頼と告知のためのチラシ/ポスターを作成し、県内各所に配布する。	迷子犬を少しでも早く効果的に飼い主と再会できるようなシステムを持つWEBサイトを製作・運営することを目的に活動。 WEBサイト制作の為に製作資金を募るクラウドファンディングプロジェクトを行い、その告知と共に、チラシ・ポスター・SNS等で犬の迷子がいかに危険か、地域社会と関係しているか、県動物指導センター(既に保護されている犬達を含め)への影響、殺処分を減らす為の影響などをアピールしてきました。 令和5年度に実施したクラウドファンディングは目標金額の達成ならずでしたが、多くの方々に改めて迷子犬に関心を持っていただけたかと思えます。 ○チラシ・ポスター配布 ・土浦市、かずみがうら市、石岡市、小美玉市など近隣の市役所の衛生課等 ・動物病院 ・動物学校 ・ペットサロン ・美容室、理容室 ・コンビニエンスストア ・その他多数 ○資料送付 ・雑誌社、全国地方紙含むメディア60社 ※茨城新聞さんには記事としてお取り扱い頂きました。 ○イベントでのチラシ配布 ・水戸市商工会議所青年部主催「わんわん祭り」にて(ボランティア6名含む) ・常総市で開催された動物愛護チャリティライブにて
	4	NPO法人 動物愛護を考える茨城県民ネットワーク	譲渡困難犬を譲渡する取り組み	一口に保護犬と言っても、たとえば子犬は病気を持っておらず人馴れも速いため、通常2か月未満で譲渡できる。しかし、人馴れしていない成犬、老犬、障害のある犬といった譲渡困難犬は、譲渡の見込みが無いということで、これまでは殺処分の対象となっていた。従って、殺処分ゼロを目指すには、これらの「譲渡困難犬」を何とかしなくてはならない。本事業の目的は、これらの譲渡困難犬をセンターから引き出し、なんとか譲渡する道筋をつけることである。特に人馴れしていない保護犬や噛み癖のある保護犬は、逸走や咬傷事故の可能性が高く、そのままでは譲渡は難しいため、トレーニングの必要がある。	1. 茨城県動物指導センター(以下、センター)から従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を引き出し、CAPINシェルターに収容する。今年度は百頭以上を目標とする。 2. まず人馴れしていない保護犬については、CAPINシェルターにおいてベテランのボランティアが、毎日の散歩や世話を通じて人間との信頼関係を構築する。これに加えて、人馴れしていない成犬の馴らしについて長い経験を持つドッグトレーナーを招いてトレーニングを行う。今年度は隔月に1回程度を予定している。 3. 老犬や障害のある犬は、譲渡先が見つかりにくい。しかし、一方で、老犬や障害のある犬は激しく動かないという”利点”もある。この利点を生かして、たとえば年配の里親さん等を見つけることが可能なはずである。そこで、県内で広く里親を探すために、現在は主につくば周辺で開催している譲渡会に加えて、SNSを利用した里親募集を通じて、県内で広く里親を募集する。これにより、潜在的な里親の発掘を目指す。	1. 茨城県動物指導センターから従来殺処分となっていた引き取り手の無い保護成犬を中心に引き出した。 2. 一般に公開して人慣れしていない犬のトレーニング教室を合計6回実施した。 3. 譲渡会を毎月1回定期開催した。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
市町村動物愛護協議会	1	守谷市動物愛護協議会	守谷市内犬猫支援事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犬猫の終生飼養および適正飼養、飼い犬猫が逸走した場合の対処方法、マイクロチップ装着の必要性、TNR活動および地域猫活動の必要性についての啓発を目的とする。 <p>2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守谷市役所に飼い主不明として収容され、譲渡された犬猫の繁殖制限を確実に実施させ、また、サポーター保護時の手術費用負担の軽減を目的とする。 ・所有者明示のための、名札やマイクロチップ装着の必要性を啓発する。 <p>3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守谷市内の負傷・衰弱犬猫を保護・治療する善意の市民の金銭負担を軽減する。 	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護に関する啓発チラシの作成、無料配布。 <p>2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守谷市役所に収容される飼い主不明の犬および生後6か月までの仔猫は年間30頭以上におよび、7日間の収容期間内にほとんどの仔猫が譲渡される。譲渡後、不妊去勢手術費用の一部を助成(一律5,000円)することで、申請書(手術の領収書添付)により手術済みを確認する。 ・収容期限7日を超えた犬猫については、里親サポーターにより譲渡目的での保護をしている。譲渡前に保護犬猫に対して不妊去勢手術を実施する場合、里親サポーターが手術費用を負担することとなるため、不妊去勢手術費用を一部助成(一律5,000円)することで金銭的負担を軽減する。 <p>3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内動物病院に情報提供してもらい、飼い主不明の負傷・衰弱猫に高額医療費がかかった場合に、医療費の一部負担をする。(4万円以上で1万円、8万円以上で2万円の助成) ・市役所収容犬猫について医療的措置が必要な場合、市内の動物病院に診察・治療をお願いすることがあるが市役所からの支払いは無い。そのため、医療費の一部を支払う。(年度末に予算残金から支払い金額を決定する。昨年度は1件あたり5千円。) 	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護に関する啓発チラシの作成、無料配布 「守谷っていいね！」のチラシの内容を充実させ、無料配布した。 ・「守谷っていいね！」作成 守犬イラスト料:16,500円(5,000円×3イラスト)、1,000部印刷費:14,930円 ・「ペット防災手帳」増刷:1,000部印刷費:14,930円 ・「犬の夏散歩」チラシ作成:500部:1,960円 <p>2 市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所から譲渡された犬・子猫、および、収容期限7日を超え里親サポーターに保護された犬猫の不妊去勢手術費用の一部を助成(雌雄一律5,000円)した。 ・合計38頭(猫36頭、犬2頭)の申請があった。合計の助成金額は、220,000円(オス4頭×5,000円(R4)、メス6頭×10,000円(R4)、オス14頭×5,000円(R5)、メス14頭×5,000円(R5))であった。 <p>3 市内で保護された負傷・衰弱猫の医療費に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼い主不明の負傷衰弱猫の診察・治療に対して、市民が高額医療費を負担した場合に、医療費の一部を助成した(4万円以上で1万円助成、8万円以上で2万円助成)。助成額は、60,000円であった(1万円×4件、2万円×1件)。 ・市役所収容犬猫の診察・治療を、市役所の依頼を受けて市内動物病院が請け負った場合、医療費の一部をお支払した。合計45,000円。*今年度は市補助金から捻出。
	2	取手市動物愛護協議会	犬猫殺処分を無くす講演会	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬猫愛護・保護活動を実践している著名人を招いて講演していただき、市民への動物愛護への関心を高め、犬猫殺処分ゼロの実現を目指します。 <p>2 猫に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 猫の譲渡会を開催(動物愛護団体と共催)し、同会場にて地域猫相談会を実施し、地域猫の啓発を行い、地域猫への理解を深めていただき、猫の殺処分のゼロを目指します。 	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬猫愛護・保護活動を実践している著名人を招いて講演会を開催する。 <p>2 猫に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内で活動している動物愛護団体が毎月市役所敷地にて犬猫譲渡会を開催していますが、動物愛護週間(9月20日から9月26日)などに本協議会と共催とし同会場で地域猫活動相談会を実施し、地域猫の啓発を図り、猫の収容頭数の減少と殺処分のゼロを目指します。 	<p>1 動物愛護講演会「保護犬を家族にする～命を救う選択～」</p> <ul style="list-style-type: none"> タレントのユージ氏を講師に招き、保護犬の里親となった立場から講演ををしていただきました。パネルディスカッションでは、ゲストパネラーに取手市PR大使のさくらまや氏、元ガールズケイリン選手の高木真備氏を招待しましたが、当日さくらまや氏が都合により欠席となったことから、ユージ氏と高木真備氏でパネルディスカッションを行いました。高木真備氏も動物愛護活動に取り組んでおり、里親として保護犬と暮らしていることから、里親になったきっかけ、喜びや大変だったことについて語っていただきました。 当日は、122名(うち市外14名)の来場がありました。高木真備氏がSNSで講演会の周知をしていただいたことから、競輪ファンの来場もあり、市民の動物愛護・犬猫殺処分ゼロの実現への関心・機運を高めることができました。 <p>2 地域猫相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年10月15日(日)に、予約制の地域猫相談会の開催を設定しました。 広報とりで10月1日号に地域猫相談会の募集記事を掲載し、広報掲載の結果、4件の問い合わせがありました。うち3件は電話で相談が完結し、うち1件は、10月13日(金)に窓口で相談したいとの要望がありました。10月15日(日)の予約が無いことから、地域猫相談会は中止といたしました。 10月13日(金)の地域猫の窓口相談の結果、地域猫活動事業計画書を1件受理しました。地域の了解を基に地域猫活動をすることで、飼い主のいない猫との共生を目指します。
	3	つくばみらい市動物愛護協議会	つくばみらい市内における動物愛護意識の醸成及び野良猫対策	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> つくばみらい市民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。 <p>2 猫に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)市役所で保護した犬猫について、つくばみらい市犬猫里親サポーター(保護先)へ引き渡された犬猫の繁殖制限を確実に実施させ、また、サポーター保護時の手術費用負担を軽減する。 (2)保護猫の譲渡 つくばみらい市内で保護した猫について、譲渡を推進する。 <p>3 その他の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれる市民への金銭負担軽減。 	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> つくばみらい市民を対象に「命の授業」を開催。茨城県の現状、殺処分ゼロを目指す取組を紹介する。啓発チラシを作成し、市内小中学校や市役所窓口、ボランティア団体の譲渡会等で配布する。 <p>2 犬・猫に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)里親サポーター支援 市役所で保護した犬猫について、犬猫里親サポーターが支払った不妊去勢手術費用の一部を助成(オス5,000円、メス10,000円)する。 (2)保護猫の譲渡 市内で保護した猫について、市内のボランティア団体が開催する譲渡会を後援する。 ※ただし、保護猫がいる場合に限る。 <p>3 その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれた市民が、高額医療費を負担した場合に医療費の一部を助成。 	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正飼養の普及啓発を目的として、11月15日(水)にペットの飼い方セミナーを開催した。茨城県生活衛生課職員から茨城県の殺処分ゼロを目指す取組を紹介したほか、動物愛護の専門家から飼い方のアドバイスを受けた。併せて、犬猫愛護団体や茨城県、つくばみらい市が作成した啓発資料を配布した。 <p>2 犬・猫の対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)里親サポーター支援 市役所が保護し、里親サポーターに引き渡された犬猫の初期医療費の一部を助成した(実費、但し上限10,000円)。また、保護日数に応じて保護活動費を助成した(15日までごとに2,500円、最大90日分まで)。 保護実績:13頭 (2)保護猫の譲渡 市内ボランティア団体の譲渡会を後援し、市役所が保護した猫の譲渡を推進した。譲渡会情報掲示板を公共施設3箇所を設置し、来庁者への周知を図った。 譲渡会開催回数:8回、譲渡済頭数:猫13頭 <p>3 その他の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内で飼い主不明の猫に繁殖制限を実施する市民に、動物愛護協議会が所有する物品を貸し出し、TNR活動を支援した。また、不妊去勢手術費用の一部を助成した。 賞出回数:捕獲器20回 不妊去勢費用助成:オス 5,000円×1頭、メス 10,000円×4頭

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
市町村動物愛護協議会	4	阿見町動物愛護協議会	譲渡会事業・地域猫事業・一時預かりボランティア事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。</p> <p>2 犬猫に対する取組 (1)地域猫活動 野良猫による騒音、悪臭などの被害が多いため対策として、地域猫活動を実施している。 (2)保護犬猫の譲渡 町内で保護した猫について、譲渡を推進する。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 町広報、譲渡会、犬のしつけ教室等でのチラシ配布</p> <p>2 犬猫に対する取組 (1)譲渡会 ・適宜開催とする。(天候や気温・譲渡対象犬猫の頭数により態度を決定する) (2)会員活動 ・獣医師 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ・町動物愛護会員:飼い主のいない犬猫の一時保護等 (3)地域猫事業 ・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 ・県の補助事業活用 (4)一時預かりボランティア事業 ・一時預かり費用の助成(ミルク、えさ、トイレ用砂及びペットシート)</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 広報あみ9月号に掲示。10月さわやかフェアで譲渡会を実施。</p> <p>2 犬猫に対する取組 会員活動 ○獣医師5名:飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ○町動物愛護会員9名:飼い主のいない犬猫の保護・一時預かり等</p> <p>飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 犬 検便フィラリア検査件数 5件 犬 寄生虫駆除件数 11件 犬 ワクチン件数 2件 猫 検便・寄生虫駆除件数 154件 猫 エイズ白血病検査件数 35件 猫 3種混合ワクチン件数 62件 その他 インターフェロン 13件</p> <p>飼い主のいない犬猫保護頭数 ○犬12頭、猫58頭 計70頭 内訳 犬:譲渡3 返還6 指導セ1 死亡1 保護中1 猫:譲渡37 保護中18 保護中死亡3</p> <p>飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成:猫オス 0件 猫メス 5件 県の補助事業活用:3地区 39件</p>
	5	常総市動物愛護協議会	常総市における迷い犬の保護、野良猫の不妊去勢手術、譲渡会の開催	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、犬猫の適正飼養に関する相談を受け付け、動物愛護に関する啓発を図る。</p> <p>2 猫に対する取組 (1)野良猫の不妊去勢手術支援 (2)多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助</p> <p>3 その他の取組 迷い犬の保護</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発の取組 常総市内で開催されるイベント等において適正飼養に関する相談会を行い、動物愛護の啓発活動を行う。</p> <p>2 猫に対する取組 (1)野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、常総市動物愛護協議会の現状では猫は保護できる現状にないため、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行う。 (2)多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行う。</p> <p>3 その他の取組 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげる。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、犬猫の適正飼養に関する相談を受け付け、動物愛護に関する啓発を図った。</p> <p>2 猫に対する取組 (1)野良猫の不妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行った。 (2)保護猫の譲渡 令和6年2月23日(日)、3月24日(日)に犬猫譲渡会を実施。 さらに、常総市で市民から猫の保護の相談があった場合には、常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しを実施した。 (3)多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行った。</p> <p>3 その他の取組 (1)迷い犬の保護 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげた。 (2)譲渡会の開催 令和6年2月23日(日) 令和6年3月24日(日)</p>
	6	石岡市動物愛護協議会	石岡市内の野良猫と人間との共生を目指す事業	<p>1 動物愛護に関する啓発等の取組 石岡市内の小中学生に向け猫達と共生することの大切さを説く</p> <p>2 猫に対する取組 野良猫と人間との共生を目指し、殺処分ゼロへの第一歩は避妊、去勢手術であることを周知してもらう。</p>	<p>1 動物愛護に関する啓発の取組 啓発ポスターを作成し、石岡市立小中学校24校および公民館に貼る。チラシを作成し配布する。</p> <p>2 猫に対する取組 (1)石岡市内の農家をターゲットとして1か月1000枚を目標としてチラシをポスティングする。 (2)月2回のペースで譲渡会を開催する。</p>	<p>石岡市立小中学校24校及び公民館に、猫達との共生の大切さを説くための啓発ポスター掲示やチラシを配布し、啓発活動を実施した。 石岡市内の農家などをターゲットに野良猫と人間の共生を目指し、殺処分ゼロへの第一歩は避妊・去勢手術であることを周知するためのチラシをポスティングした。 また、犬猫殺処分ゼロを目指すために、保護猫シェルターを借り上げ、多頭飼育崩壊現場で保護した猫達の里親が見つかるまでの飼育や保護を行っており、定期的に譲渡会の開催も行っている。</p>